

# 石川県七尾美術館だより

平成25年4月1日発行  
編集・発行 石川県七尾美術館

## 第73号 (春号)



ISHIKAWA  
NANAO  
ART MUSEUM

長谷川等伯一門と能登  
～“伝説”は、この地よりはじまった～

「涅槃図」  
長谷川信春（等伯）（1539～1610）  
永禄11年（1568） 羽咋市・妙成寺蔵

# 展覧会紹介

平成25年4月27日(土)～

6月30日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

## 長谷川等伯一門と能登

「伝説」は、この地よりはじまった

4月27日(土)～6月2日(日)

### 第2部

能登七尾出身で、桃山時代に活躍した絵師・長谷川等伯(1539～1610)。最近では、安部龍太郎氏の小説『等伯』が直木賞を受賞したことにより、一層注目されています。小説を通して等伯を知り、その魅力の虜になった方も多いのではないのでしょうか。

小説には、その生涯を通じての重要なキーワードとして、能登が度々登場します。実際、等伯にとって能登は、絵師としてのスタートを切った重要な地で、30歳過ぎ頃までは制作の拠点でした。その間、多くのことを学んで様々な知識や経験を身につけ、絵師として大成する素養を備えていたのです。

その後、京都の地に移住した等伯は、幾多の荒波を乗り越えて着実に名声を拡大。やがて天下人・豊臣秀吉に認められ、画壇に揺るぎない地位を築くに至りました。その「伝説」的ともいえる活躍ぶりは、数百年経過してもなお光彩を放ち、現在も私たちを魅了し続けるのです。



県文「十二天図」(白天)  
長谷川信春(等伯)  
羽咋市・正覚院蔵

本展では、等伯「伝説」の「出発点」となった「能登時代」に注目。その頃の制作とされる仏画をはじめ、養父・宗清(道浄)(1507～71)や養祖父といわれる無分(生没年不詳)、そして一門の絵師とされる等誉(？～1636)といった、能登ゆかりの「長谷川派」絵師の作品などを、参考資料も加えて計19点を紹介予定です。



「海梁に雀図」  
長谷川信春(等伯)  
個人蔵

### 【等伯の「能登時代」とは】

現在、等伯誕生の天文8年(1539)より、京都移住とされる元龜2年(1571)頃までの約30年間を「能登時代」と呼んでいます。

その頃、能登国を統治していたのは大名・能登畠山氏。同氏は七代目当主義総(1491～1545)の頃に全盛期を迎えました。義総は優れた政治手腕を発揮して国内を安定させるのみならず、文芸に並々ならぬ情熱を寄せ、その治世下では「畠山文化」と呼ばれる文化活動が盛んに行われました。その結果、七尾の町は多くのヒトやモノで賑わい、経済・文化の両面で大いに繁栄。当時の七尾は、北陸有数の大都市だったのです。

等伯が生まれたのは、ちょうど義総の晩年期。恐らく、身の回りには多くの文物、例えば貴重な美術品などがあり、それを鑑賞する機会もあったかも知れません。等伯が多感な少年時代を送ったのが、そのような時期であったことは、彼が絵師

として成長していくうえで、大きな糧となった可能性にあります。

等伯は当初、畠山氏の家臣(畠山重臣・長氏の家臣とも)奥村家に生まれ、後に長谷川家へ養子に出されたとされています。但し、それが何時で、なぜ養子に出されたのかはわかっていません。

長谷川家の養父・宗清、そして養祖父とされる無分は染物業を営み、絵もよくしたと伝えられています。これまで全く「謎の存在」でした。しかしここ数年、新しく作品が発見・確認され、兩人とも優れた絵師であることが実証されたのです。しかも、それが等伯若年期の作品と実にソックリ。それはつまり、等伯がこの2人に学び、その大きな影響下にあった、ということの表れに他なりません。従って、等伯が絵師として大成できた背景には、「能登の繁栄」と「優れた師匠」の二大要素が大きな役割を果たした、と考えられるのです。



「日蓮聖人像」  
長谷川宗清(道浄)  
輪島市・成隆寺蔵

さて、等伯が本格的に絵師の活動を始めたのが26歳頃とされます。それは、年齢記載のある現存作品が26歳からで、かつその頃の作品点数が多いことに依ります。また、そのほとんどが仏画なのは、養父や養祖父と同じく、等伯も仏画を描く絵師であったことを物語っています。なお、長谷川家は熱心な法華宗の信者だったとされ、現存作品の多くが日蓮宗寺院の所蔵であるのも特徴です。そして、能登時代の等伯作品に共通すること、それは細密な描写と鮮やかな彩色です。今回展示

の「十二天図」(羽咋市・正覚院蔵、26歳筆)や「涅槃図」(羽咋市・妙成寺蔵、30歳筆)などは、その代表格でしょう。後年、豪快な水墨画をよくした等伯ですが、むしろ彼の本分はこのような緻密な彩色画にこそあった、といえます。

こうして、能登で著名な絵師として活躍していた等伯。しかし、やがて京都へ旅立つ時が訪れます。移住の理由については、養父母が亡くなったこと、能登畠山氏の衰退による城下の荒廃、等伯自身の立身の想いなど様々に推測されています。加えて近年では、移住の年はさらに後ではないか、という説もあり判然としません。しかし、何れにせよ家族とともに移住したのは事実であり、ここに等伯の「能登時代」は、ピリオドが打たれることとなりました。

そして、その後の長谷川家。こちらも詳しくはわかりませんが、江戸時代を通じて七尾の町に存続したようです。その中で、「絵師」として唯一名前が登場するのが等誉で、現存作品から判断すると、桃山〜江戸時代前期頃に七尾を拠点に活躍し、等伯にかなり近い位置にいたのではないかと考えられます。恐らく、七尾において等伯の跡を継承したのが、この等誉なのかもしれません。本展では等誉の作品も展示しますので、等伯の作品と比較して鑑賞するのも一興でしょう。



「涅槃図」長谷川等誉 当館蔵

### 同時開催

※会期・観覧料は「長谷川等伯一門と能登」展と共通です。

## 池田コレクションの絵画

〜近世から現代まで〜

### ◆第1展示室

七尾市出身の実業家・池田文夫氏(1907〜87)が、生涯をかけて蒐集した「池田コレクション」。茶道美術品を基本としている本コレクションですが、絵画も多く含まれています。本展では、「池田コレクション」より肉筆浮世絵や近現代日本画などを紹介します。



「蓬莱山図」菱田春草 (池田コレクション)

## 所蔵現代作品展

〜能登ゆかりの美を中心に〜

### ◆第3展示室

石川県能登地方に存在する当館は、平成7年の開館以来「能登ゆかりの作家・作品の紹介」を重要テーマと位置づけ、幅広いジャンルで関連作品の収集を行ってきました。

本展では、それら所蔵品より様々な現代作品を紹介します。



「うずまる女」高田博厚



「沈金象嵌合歡図色紙箱」山岸一男

### ◆共通観覧料

	個人	団体
一般	500円	400円
大高生	350円	300円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

### 《関連情報》

①「友の会会員限定」美術講座(要申込)  
「こまでわかった! 長谷川等伯能登時代のナツ」  
「長谷川等伯一門と能登」展関連の講座。  
詳しくは6ページをご覧ください。

②新登場! 期間限定メニュー(4/13〜)  
テイルルームで一番人気のロールケーキシリーズに、ニューフェイス「ほうじ茶ロール」が登場。スポンジには、ほうじ茶とアーモンドパウダーが入っており、しっとりふわっと良い風味。クリームは抹茶味で、能登産大納言あずき粒がちょこんとのっぺいしています。お飲み物とセットで600円♪ぜひご賞味ください。

### ③長谷川等伯作品展情報

【その1】  
石川県立美術館【☎076-231-7580】  
展覧会名 「長谷川等伯と久隅守景」  
展覧会期 4月16日(火)まで開催中  
地元ゆかりの二大巨匠による豪華なコラボ。2点の等伯作品が出品中です。

【その2】  
大阪市立美術館【☎06-6771-4874】  
展覧会名 「ボストン美術館 日本美術の至宝」  
展覧会期 4月2日(火)〜6月16日(日)  
ボストン美術館所蔵の名品の数々を紹介。等伯筆「龍虎図屏風」が出品されます。

※展覧会の詳細は各会場にお問い合わせください。

# 第69回現代美術展 七尾展

6月7日(金)～30日(日)

## ◆第1・第2・第3展示室

昨年の現代美術展七尾展の会期中に、日本を代表する漆芸作家、人間国宝(重要無形文化財保持者)の大場松魚氏が亡くなられたという訃報が届きました。一方、7月には、木工芸部門で、灰外達夫氏(珠洲市出身、金沢市在住)が人間国宝に認定されるという明るいニュースもありました。

毎年春に開催されている「現代美術展」では文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝を筆頭とする作家たちの新作が一堂に展示されます。主に県内の作家や美術愛好家たちが出品する公募展で、戦後の混乱のなか昭和20年5月に始まり、今回で69回目を迎えます。その規模は県下最大を誇り、現在、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の6部門で構成されています。所属会派を超えて作品が出品され、石川県における美術の現在を知る絶好の機会となっています。

今年3月30日(土)から4月16日(火)まで、石川県立美術館(洋画・彫刻・工芸)と金沢21世紀美術館(日本画・書・写真)の2会場で開催されます。展示作品は委嘱出品と一般公募から構成されており、委嘱出品の部では、出品委嘱作家(石川県美術文化協会会員)の作品が展示されます。一方、一般出品の部は、入選率5割という厳しい審査を経て選ばれた作品を展示するもので、展示の総点数は千点にもおよびます。

金沢展の後、県内の3会場を巡回しますが、巡回展は開催地ごとに地域の文化や産業をも反映した



昨年の展覧会の様子

地域色豊かな展示内容となります。

七尾展は昭和21年6月の第2回展が開催された後は、当美術館が開館するまで中断されていましたが、平成7年4月の開館を機に、毎年6月に開催し、今年で19回目を迎えます。「第69回現代美術展」出品作品の中から、石川県美術文化協会役員作品、能登地区在住および出身委嘱作家作品、委嘱賞・最高賞・次賞受賞作品、能登地区(宝達志水町以北)在住者の作品を選抜、紹介します。身近な作家さんの作品も多数展示されますので、お楽しみに。

なお七尾展は巡回展の最後となりますので、是非この機会にご来場ください。

※展示スペースの都合により、今回から次賞作品の展示は能登地区各市長賞受賞作品と能登地区ゆかりの作家作品のみとなりました。

会期中、第3展示室の1室では「池田コレクション」を展示します。観覧料は「現代美術展」と共通料金です。

### ◆観覧料

	一般	個人	団体
大高生	500円	400円	300円
	350円		

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

## 当館所蔵品貸出情報 (続報)

現在、岐阜県の土岐市美濃陶磁歴史館で開催中の特別展「織部・ソノ器、ヘウケモノ也」に、当館「池田コレクション」より4点の作品が出品されています。

織部は桃山時代より美濃国で生産され、当時畿内で大流行したやきもの。その奇抜で斬新な意匠は、まるで現代の抽象美術のようで、「桃山文化」の自由で闊達な雰囲気、現在の私たちに伝えてくれます。

土岐市には、元屋敷窯をはじめ織部を制作した代表的な窯が多くあり、かつてはその一大生産拠点でした。同地に建つ美濃陶磁歴史館は、織部など「美濃桃山陶」を中心に、古代から現代までの土岐市にまつわる様々なやきものを展示。その歴史を幅広く紹介しています。

ひよっとすると長谷川等伯も手にしたかもしれない織部。本場・美濃の地で、その魅力にふれてみてはいかがでしょうか。

展覧会期…5月12日(日)まで開催中

※展覧会の詳細については、土岐市美濃陶磁歴史館にお問い合わせください。

【0572(55) 1245】



市民ギャラリー

榎本友康遺作展

4月5日(金)～7日(日)  
最終日は午後4時まで

「静かな空気感の魅力」

昨年1月、60歳で亡くなった志賀町の作家榎本友康の遺作展です。

高校生の時に描いた二科展入選作品「オオロンの街」や第35回国際美術大賞展評論家賞受賞作品「里山の記憶」他、能登に住みついて終生パステルで描き続けた能登の風景画や静物画、能登の土や砂や貝などを生かして焼いた陶芸作品約1000点を展示します。

能登の「静かな時間と光」を描いた絵画「小さなオブジェ」でありながら巨石建造物のような大きな空間を創り出している「陶芸作品などを、ごゆっくりご覧ください。」



「りんご」1987

※前号に掲載した初日開場時間が変更となりました。  
前号：午後0時から ↓ 変更後：午前9時から

入場料 無料  
主催 榎本友康遺作展実行委員会  
連絡先 石谷克人 ☎090-11630-1367

全館

真宗大谷派(東本願寺) 能登教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念事業  
特別展覧会 「能登の真宗」 ～その歴史と美術～

◆東日本大震災復興支援特別展  
井上雄彦作屏風「親鸞」

同時開催

◆幼児から中学生までの作品展  
全能登ジュニア美術展覧会

4月13日(土)～21日(日) 会期中無休  
初日は午前11時から

4月12日(金)～14日(日)に厳修される、真宗大谷派(東本願寺) 能登教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を記念し、標記展覧会を開催いたします。

これは、東・西本願寺及び能登地区寺院が所蔵する法宝物を能登地区で初めて一般に合同公開することにより、能登の真宗文化の歩みを辿りその広がりについての歴史を紹介し、これらを通して七尾市民をはじめ能登地区の多くの皆様にも知らうことを目的としています。  
この機会に、ぜひお誘いあわせてご覧ください。

◆第1展示室

◎東・西本願寺の法宝物展示

「顕浄土真実教行証文類(教行信証/坂東本)」※複製  
「親鸞聖人影像(安城御影)」※複製  
「報恩講私記」 (以上、東本願寺所蔵)  
「嘆徳文」「蓮能尼像」 (以上、西本願寺所蔵)  
その他、計9点を展示します。

◆第2展示室

◎能登地区寺院の法宝物展示

親鸞聖人や蓮如上人等の御影像、御文や御消息、歴代上人の書状、その他能登地区寺院が所蔵する法宝物を計26点展示します。

◆第3展示室

◎井上雄彦作屏風「親鸞」

マンガ「スラムダンク」や「バガボンド」の作者で知られる、マンガ家井上雄彦氏が描いた屏風「親鸞」を、東日本大震災復興支援活動の一環として、一般公開いたします。ぜひ、迫力ある作品をご覧ください。

◎全能登ジュニア美術展覧会の作品展示

『いのち』を共通テーマとし能登全域より応募いただいた、4歳から中学3年生までの書道作品1,261点、絵画作品80点を展示します。ぜひ、子どもたちが精一杯表現してくれた力作をご覧ください。

《大賞作品紹介》

【書道部門】  
「ありがたく」  
向田紗弥華 高浜小学校2年



【絵画部門】  
「あひろ」  
崖 華子 鳳至小学校1年



入場料 500円(前売券あり)、中学生以下無料

※前売割引、団体割引はありません  
主催 真宗大谷派(東本願寺) 能登教区  
宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会

連絡先 能登教務所 ☎0767(53) 0058

◆池田コレクション展示室

池田コレクションのいきものたち

アワビの形の器、抹茶茶碗に描かれた鶴・亀・馬、細密な龍が絵付けされた九谷焼の机、加賀象嵌を施した雉などの工芸作品と、木彫作品を展示します。

入場料 特別展覧会「能登の真宗」と共通料金  
主催 七尾市・公益財団法人七尾美術館

# 平成25年度 友の会カレンダー

2013 4月 ●4月1日(月) 美術館だより (73号) 春号発行。

5月 ◆5月19日(日) 美術講座「ここまでわかった!長谷川等伯能登時代のナゾ」《詳細は下記参照》  
◎5月26日(日) 「第14回友の会鑑賞の旅〜御神宝制作奉仕作家さんと行く〜式年遷宮の伊勢神宮」  
《詳細は本だより裏表紙参照》

7月 ●7月1日(月) 美術館だより (74号) 夏号発行。

8月 ○8月9日(金) 「長谷川等伯展」開会式へ友の会会員をご招待!  
式典終了後には展示会の鑑賞(無料)もできます。  
◆8月18日(日) 「長谷川等伯展」ギャラリートーク(展示作品の解説)※  
友の会会員は先行予約で受付します。

10月 ●10月1日(火) 美術館だより (75号) 秋号発行。

11月 ○11月8日(金) 「ボローニャ展」開会式へ友の会会員をご招待!  
式典終了後には展示会の鑑賞(無料)もできます。

2014 1月 ●1月1日(水) 美術館だより (76号) 冬号発行。  
◇日時未定 美術講座「篆刻講座(中級編)」※

昨年度開催し好評を博した篆刻制作のステップアップ講座。2日間で、字書を用いて印稿作成からの制作を予定しています。前回と同じく、篆刻・書家の大場濯川先生に指導していただきます。

注:(※) 印の催しは会員本人と同伴者2名まで参加できます



平成25年度 石川縣七尾美術館  
友の会会員証

## 美術講座

「ここまでわかった!」  
長谷川等伯能登時代のナゾ

等伯の能登時代、新発見作品等について  
本展担当学芸員がより詳しく解りやすく説明。  
明。ホールにて詳細画像による解説の後、  
展示室に移動し「長谷川等伯一門と能登」  
展を鑑賞します。

日時 5月19日(日)  
午後2時〜(約1時間30分)

会場 アートホール、展示室

対象 当館友の会会員限定

定員 15名(定員に達し次第締切)

参加費 400円(展覧会観覧料)

募集 4月2日(火)より電話受付開始。

七尾美術館 ☎0767(53) 1500

## 友の会「美術講座」開催報告

やさしい篆刻

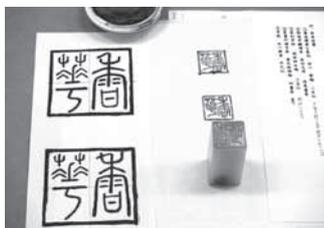
去る1月20日は、雪が舞う寒い日でしたが、美術講座会場は参加者皆さんの熱気で一日中、ぽかぽかでした。

まず講師の大場濯川先生の「篆刻とは…」から始まり、道具の使用方法、「文字のなりたち」まで幅広くレクチャーをしていただきました。

続いてはデモンストレーション制作。作務衣姿に頭部固定式拡大鏡を装着し、手早く彫り進める先生の姿を静かに見守る参加者の皆さん。会場内には「コリッ、コリッ」と心地よい音が響いています。「ふっ」と息を吹きかけ石屑を飛ばすと、きれいに彫られた印面が現れ、思わず「ほう」と感嘆の声が漏れます。

次は、大場先生にご持参いただいた発色の良い最高級の印肉を使用しての試し捺印です。「仕上がりは…」半紙から印が離れる瞬間の何とも言えないドキドキ・わくわく感は独特です。先生もこの瞬間が「一番楽しみでもあり怖くもある」と仰っていました。

レクチャーと印稿作成までに3時間以上経過しており「今日中に仕上がるのかな？」と不安もありましたが、実際に彫り始めると、皆さん実際に器用に手際よく制作されていました。救急箱も準備していましたが、使用することなく無事終了し、参加者全員が素敵な印を仕上げることができました。最後には全ての篆刻作品を並べて合評会をすることもでき、とても有意義な美術講座となりました。  
ご指導いただきました大場濯川先生、どうもありがとうございました。



# 平成24年度新収蔵品紹介

平成24年度に新しく当美術館所蔵となった作品を紹介します。  
(4/1現在)

## 日本画

- ①「山水図」 長谷川信春(等伯)  
室町〜桃山時代(16世紀) 制作  
購入 ※美術館日より71号裏表紙参照
- ②「懸」 昭和60年(1985) 制作  
第42回東丘社展 曲子光男
- ③「雪山」 平成2年(1990) 制作  
第47回東丘社展 曲子光男
- ④「冬林」 平成5年(1993) 制作  
第25回改組日展 曲子光男  
※②〜④曲子明良氏より寄附
- ⑤「春を待つ」 昭和42年(1967) 制作  
第10回新日展 中町 進
- ⑥「蒼雲」 昭和60年(1985) 制作  
第4回石川県日本画会展 中町 進
- ⑦「月」 昭和61年(1986) 制作  
第18回改組日展 中町 進
- ⑧「街角」 平成9年(1997) 制作  
第29回改組日展 中町 進  
※⑤〜⑧中町 進氏より寄附



「山水図」長谷川信春(等伯)



「雪山」曲子光男



「5TH AVENUE & BROADWAY」中町 力



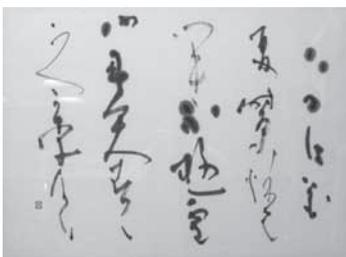
「月」中町 進



「湖畔早春」松下久信



「能登島(七尾)」中村静勇



「春は花」高木聖鶴



「夏之漁港」木谷信熾

## ⑨「5TH AVENUE & BROADWAY」

- 平成7年(1995) 制作  
第27回改組日展 中町 力
- ⑩「Fr. Queens」 平成12年(2000) 制作  
第45回青塔社展 中町 力
- ⑪「Singapore」 平成19年(2007) 制作  
第52回青塔社展 中町 力
- ⑫「CHICAGO SUMMER TIME」 平成20年(2008) 制作  
第40回改組日展 中町 力  
「午後の闘牛場」 平成22年(2010) 制作  
第55回青塔社展 中町 力  
※⑨〜⑬中町 力氏より寄附

## 洋画

- ⑭「能登 福浦海岸」 昭和48年(1973) 制作  
中町 進
- ⑮「能登 皆月海岸」 昭和49年(1974) 制作  
中町 進  
※⑭、⑮中町 進氏より寄附
- ⑯「雪の舟宿」 平成12年(2000) 制作  
松下久信
- ⑰「湖畔早春」 平成18年(2006) 制作  
松下久信  
第68回一水会展会員佳作賞
- ⑱「橋のある風景」 平成12年(2000) 制作  
中村静勇  
※⑱山本由美子氏より寄附

## 工芸

- ⑲「夏之漁港」 平成11年(1999) 制作  
木谷信熾  
第9回日工会展
- ⑲「冬」 平成15年(2003) 制作  
木谷信熾  
第35回改組日展  
※⑲、⑳木谷雅幸氏より寄附
- ⑳「わだつみの」 平成12年(2000) 頃制作  
高木聖鶴
- ㉑「春は花」 平成12年(2000) 頃制作  
高木聖鶴  
※㉑、㉒七尾商業団地事業共同組合より寄附

## 書



# これからの展覧会予定



## ◆第1・2展示室

### 「池田コレクションが語るもの ～池田文夫氏愛玩の逸品たち～」 平成25年7月6日(土)～8月4日(日)

「コレクション」とは、蒐集者の想いの結晶体といえるでしょう。「コレクション」に加えられた作品の1点1点には、蒐集者の愛玩の気持ちのみならず、その時々喜怒哀楽までも凝縮されているように思えます。つまり「コレクション」は蒐集者「そのもの」なのであり、すると「池田コレクション」もまた、池田文夫氏「そのもの」なのでしょう。本展では同コレクションより様々な作品を紹介します。



「美濃伊賀水指」(池田コレクション)

## ◆第1・2・3展示室

### 「長谷川等伯展 ～大徳寺と等伯を中心に～」 平成25年8月10日(土)～9月16日(月・祝) 会期中無休

長谷川等伯が京都に移住して後、その活動において重要な拠点となっていたのが、京都の名利・大徳寺です。等伯は同寺と塔頭寺院で春屋宗園など名だたる名僧に学び、「三門天井画・柱絵」をはじめ、数々の名作を描き続けました。

従って大徳寺やその塔頭寺院には、現在も多くの等伯作品が所蔵されています。

シリーズ18回目となる今回は、大徳寺ゆかりの作品を中心に、一部能登時代の作品や史料なども含めて約20点を紹介予定です。



重文「春屋宗園像」長谷川等伯 京都市・三玄院蔵

## 第14回 友の会鑑賞の旅

### 参加者大募集

#### 御神宝制作奉仕作家さんと行く 式年遷宮の伊勢神宮

平成25年は伊勢神宮の式年遷宮の年にあたります。20年に一度、お宮を新たに造営し、神々がお使いになる調度や神宝類も新調したうえで、神様に新しいお宮に遷っていただくという式年遷宮。遡ること1300年以上も前から続いています。

今回はその式年遷宮に際し、御神宝を制作奉仕された漆芸作家の山岸一男さん(輪島市在住)にご同行いただきます。御神宝制作や式年遷宮について興味深いお話を伺うことができるまたとない機会です。御神体が移される遷御の儀(10月)直前は非常に混み合います。新緑さわやかな季節、他にはない美術館ならではの「お伊勢詣り」を楽しみませんか？  
皆様からのお申込みをお待ちしております。



伊勢神宮の鳥居

#### ◆ 日程 5月26日(日)【貸切バス利用】

午前5時出発、午後9時頃帰着。(日帰り)

#### ◆ 見学地 (三重県)

(予定) 伊勢神宮(外宮・内宮)  
せんぐう館・おかげ横丁など

#### ◆ 参加費 9,000円

※バス代・見学料・昼食代・旅行傷害保険料込。  
※会員以外の方は友の会へご入会ください。  
※年会費は1,000円です。

#### ◆ 定員 先着30名(対象は原則として成人)

#### ◆ 募集 4月2日(火)～5月21日(火)

※参加費をご持参のうえ、当館受付までお越しください。



割引、プレゼントなど特典いろいろ / ぜひ当館でもご利用ください。



飛行機……能登空港から能登有料道路利用約45分  
車……金沢から能登有料道路利用約1時間15分  
タクシー……JR七尾駅から約5分  
徒歩……JR七尾駅から約20分  
市内循環バス「まりん号」……JR七尾駅前「ミナ、クル」ビル裏バス停から西回り「七尾美術館前」下車  
ななおコミュニティバスぐるっと? ……JR七尾駅5番乗り場から西コース「小丸山台1丁目」下車

◆ 4月～6月の休館日 ◆

4月	1, 8～12, 22～26
5月	7, 13, 20, 27
6月	3～6, 10, 17, 24

◆ 開館時間 ◆

午前9:00～午後5:00  
(入館は午後4:30まで)

◎次号・第74号(夏号)は7月1日発行予定です。